

**倒産集計****信用交換所京都本社**

09年4月繊維倒産

倒産件数は減少するも、先行きの警戒感増す

全 国 発生件数 = 40件 負債額 = 119億600万円

2009年(平成21年)4月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は40件で、前月比で19件(32.2%)、前年同月比で17件(29.8%)減少した。

負債額は119億600万円で、前月比で282億3600万円(70.3%)、前年同月比では357億4700万円(75.0%)減少した。件数の減少に加え、負債額が10億円を超える大型倒産についても、(株)オー・エッチ・エムエンタープライズ(東京都渋谷区、婦人ニットウエア卸、負債額16億7300万円)、(株)フォーエヴァー(東京都渋谷区、婦人ニットウエア製造、同11億円)、(株)ダナーギブソン(東京都渋谷区、婦人ニットウエア製造、同10億円)、前橋興産(株)(前橋市、絹織物製造ほか、同10億円)の4件(前月10件)にとどまったことから、負債額は大幅に減少した。

倒産の増加が懸念される中で、当月の倒産件数が低水準にとどまったのは、「緊急保証制度」などセーフティネットが一定の効果をもたらしているためだと考えられる。また、支払い条件の変更などにより資金繰りの緩和を図った先も散見され、これも一つの要因とみられる。

しかし、景気悪化による雇用の不安や所得の減少などから消費者の節約・選別志向は強く、なかでも衣料品に対する消費マインドの冷え込みは深刻であり、大手各社が相次いで業績見通しを下方修正するなど経営環境は極めて厳しい状況にある。

政府が打ち出す景気対策や消費刺激策についても繊維業界への波及効果は多くを期待できず、また、懸念される中小零細業者の資金繰り難もいまだ解消されていない。

先行きに明るさが見えない中で、水面下ではいわゆる「倒産予備軍」が多く散見されることから、今後の商況次第では倒産が増勢に転じる可能性は十分にある。

業種別では「ニット製品・洋品雑貨製造卸」13件、「小売商」8件、「織物製造」「紳士・婦人・子供・被服製造卸」各5件、「染色整理・特殊加工」「糸及び原料商」「織物卸」各2件、「呉服・和装製品製造卸」「寝具・インテリア製品製造卸」「その他」各1件。

原因別では「業績ギリ貧」が28件で全体の70.0%を占め、以下は「貸し倒れ損失」5件、「放漫経営」「資金力薄弱」各3件、「融手連鎖」1件だった。

京 都 発生件数 = 3件(前年同月4件) 負債額 = 3億2000万円

(前年同月5億1000万円)

滋 賀 発生件数 = 2件(前年同月1件) 負債額 = 1億円

(前年同月6億5000万円)